

韓国

日本総合研究所 調査部

主任研究員 野木森 稔

E-mail: nogimori.minoru@jri.co.jp

景気は持ち直すも債務リスクが高まる

SMBC Asia Monthly

■輸出改善、政策対応により景気は回復傾向を強める

韓国経済は、4~6月期にかけて2四半期連続で成長率がマイナスとなる等悪化が続いたが、足元では回復の動きをみせている。

9月の輸出(米ドルベース)は前年同月比+7.6%と7ヵ月ぶりにプラスに転じた(右上図)。半導体やSSD(Solid-State Drive)等IT関連輸出が同+16.4%と前月の同+10.3%から加速し、引き続きけん引役となった。また、自動車・同部品輸出も同+2.0%と、7ヵ月振りにプラスに転じ、足元の輸出を押し上げている。また、ウエイトは小さいが、新型コロナ検査キット等を含むバイオヘルスの輸出が同+79.3%と大幅な増加を続けている。

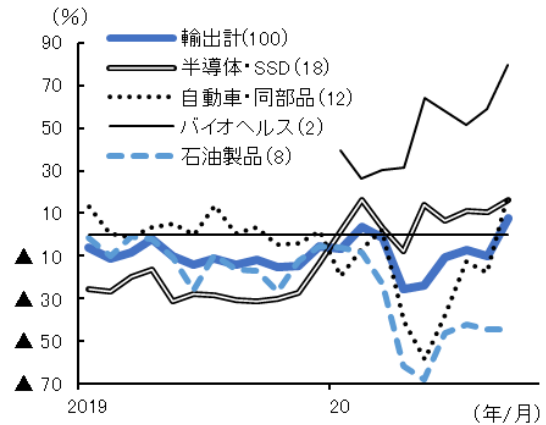
内需についても、9月22日に第4次補正予算が成立する等、矢継ぎ早に打ち出された景気対策が支えとなっている。年に4回の補正予算が組まれたのは1961年以来であり、7.8兆ウォン(GDP比0.41%)の同予算では、中小企業支援、雇用支援、低所得層向け支援、子ども支援、防疫支援が組み込まれた。第1次、第2次、第3次(それぞれ3月、4月、7月に成立)と合わせると予算規模はGDP比3.5%となり、2009年のリーマン・ショック時を大きく上回る(右下図)。好調な輸出と財政拡張によって、韓国経済は年末にかけて回復傾向を強めることになろう。

■懸念が高まる債務リスク

景気は持ち直している一方、家計と政府の債務残高の急速な増加への懸念が高まっている。低金利下での不動産投資の活発化等を背景に、4~6月期に家計金融負債は対GDP比で101%と、1~3月期の98.7%から拡大した。また、上述した四つの補正予算によって、2020年の政府債務残高は対GDP比43.9%と、2019年の37.7%から拡大する見通しである。同残高は先進国と比べれば低水準であるが、通貨ウォンには不安定さが残ることから、資本流出への警戒は怠れない。この問題に神経をとがらせている当局は、10月5日に政府債務残高と財政赤字をそれぞれ対GDP比で60%、3%以内に抑えるという健全性維持に向けたルール適用を発表している。

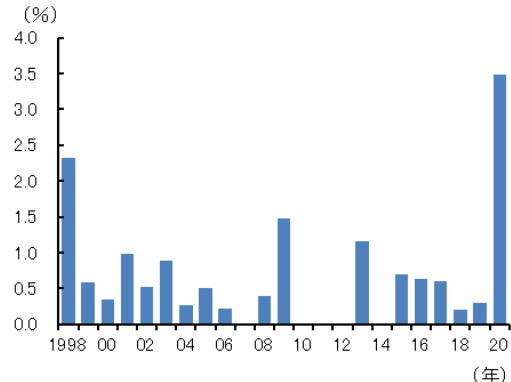
家計、政府ともに債務残高の大幅な上昇は、中長期的に個人消費、政府支出を圧迫する要因になる。当局がそうしたリスクを避けるため、早期に金融引き締め、緊縮財政にかじを切る可能性も排除できず、その場合は目先の景気下振れリスクが高まることになろう。

<韓国輸出(米ドルベース、前年同月比)>



(出所) CEIOを基に日本総研作成
(注)カッコ内は2019年の輸出におけるシェア。

<韓国補正予算(対GDP比)>



(出所) 企画財政部、ブルームバーグを基に日本総研作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。